

石川工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	課題演習
科目基礎情報						
科目番号	20547		科目区分	専門 / 必修		
授業形態			単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	建築学科		対象学年	4		
開設期	通年		週時間数	3		
教科書/教材	指導教員が指示する。					
担当教員	恩村 定幸,建築学科 全教員					
到達目標						
1. 進んで課題に取り組み, 意見等を交換することができる。 2. 専門分野での基礎知識・技術を習得する。 3. 演習成果をわかりやすくまとめることができる。 4. 自らの研究すべき課題を設定することができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	進んで課題に取り組み, 意見等を交換することができる。		課題に取り組み, 意見等を交換することができる。		課題に取り組み, 意見等を交換することができない。	
評価項目2	専門分野での知識・技術を習得する。		専門分野での基礎知識・技術を習得する。		専門分野での基礎知識・技術を習得できていない。	
評価項目3,4	演習成果をわかりやすくまとめることができる。自らの研究すべき課題を設定することができる。		演習成果をまとめることができる。自らの研究すべき課題を設定することができる。		演習成果をまとめることができない。自らの研究すべき課題を設定することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
本科学習目標 1 本科学習目標 2 本科学習目標 4 創造工学プログラム B1専門(建築学)						
教育方法等						
概要	興味ある分野に関して学生自らが意欲的・実践的に行動し, 指導教員のもと, これまでに学習した知識を基盤に各自のものづくりや建築的課題を探索するための演習を行い, 自らの考えを正しく表現してまとめあげる。また, 5年次の卒業研究テーマ選択の指針とするとともに, 卒業研究を進めるための基礎知識を深める。					
授業の進め方・方法	【事前事後学習など】 定期試験の代わりに演習レポートを課す。 【関連科目】 建築学科全科目					
注意点	【評価方法・評価基準】 配属研究室教員による, 研究室演習課題への取り組み方および演習レポートの内容の評価 (70%) 発表会におけるまとめ方および発表状況の評価 (30%) 「成績の評価基準として60点以上を合格とする。」 【その他の履修上の注意事項や学習上の助言】 指導教員との打合せを怠らないこと。 草案・レポート等は必ず提出すること。 学外コンテストや学外行事への参加を課題とする場合がある。					
テスト						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
前期	1stQ	週	授業内容		週ごとの到達目標	
		1週	ガイダンス・研究室配属		進んで課題に取り組み, 意見等を交換することができる。	
		2週	課題演習 1		進んで課題に取り組み, 意見等を交換することができる。	
		3週	課題演習 2		進んで課題に取り組み, 意見等を交換することができる。	
		4週	課題演習 3		進んで課題に取り組み, 意見等を交換することができる。	
		5週	課題演習 4		専門分野での基礎知識・技術を習得する。	
		6週	課題演習 5		専門分野での基礎知識・技術を習得する。	
		7週	課題演習 6		専門分野での基礎知識・技術を習得する。	
	2ndQ	8週	課題演習 7		専門分野での基礎知識・技術を習得する。	
		9週	課題演習 8		専門分野での基礎知識・技術を習得する。	
		10週	課題演習 9		専門分野での基礎知識・技術を習得する。	
		11週	課題演習10		専門分野での基礎知識・技術を習得する。	
		12週	課題演習11		専門分野での基礎知識・技術を習得する。	
		13週	課題演習12		専門分野での基礎知識・技術を習得する。	
		14週	前期活動まとめ		演習成果をわかりやすくまとめることができる。	
		15週	前期復習		演習成果をわかりやすくまとめることができる。	
		16週				
後期	3rdQ	1週	課題演習13		進んで課題に取り組み, 意見等を交換することができる。	
		2週	課題演習14		進んで課題に取り組み, 意見等を交換することができる。	
		3週	課題演習15		進んで課題に取り組み, 意見等を交換することができる。	

		4週	課題演習16	専門分野での基礎知識・技術を習得する。
		5週	課題演習17	専門分野での基礎知識・技術を習得する。
		6週	課題演習18	専門分野での基礎知識・技術を習得する。
		7週	課題演習19	専門分野での基礎知識・技術を習得する。
		8週	課題演習20	専門分野での基礎知識・技術を習得する。
	4thQ	9週	課題演習21	専門分野での基礎知識・技術を習得する。
		10週	課題演習22	自らの研究すべき課題を設定することができる。
		11週	課題演習23	自らの研究すべき課題を設定することができる。
		12週	課題演習24	自らの研究すべき課題を設定することができる。
		13週	課題演習25	自らの研究すべき課題を設定することができる。
		14週	後期活動まとめ	演習成果をわかりやすくまとめることができる。
		15週	後期復習	演習成果をわかりやすくまとめることができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	技術者倫理 (知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。	3	
			現代社会の具体的な諸問題を題材に、自ら専門とする工学分野に関連させ、技術者倫理観に基づいて、取るべきふさわしい行動を説明できる。	3	
			技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を認識している。	3	
			社会における技術者の役割と責任を説明できる。	3	
			情報技術の進展が社会に及ぼす影響、個人情報保護法、著作権などの法律について説明できる。	3	
			高度情報通信ネットワーク社会の中核にある情報通信技術と倫理との関わりを説明できる。	3	
			環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。	3	
			環境問題を考慮して、技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	
			国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	
			過疎化、少子化など地方が抱える問題について認識し、地域社会に貢献するために科学技術が果たせる役割について説明できる。	3	
			知的財産の社会的意義や重要性の観点から、知的財産に関する基本的な事項を説明できる。	3	
			知的財産の獲得などで必要な新規アイデアを生み出す技法などについて説明できる。	3	
			技術者の社会的責任、社会規範や法令を守ること、企業内の法令順守(コンプライアンス)の重要性について説明できる。	3	
			技術者を目指す者として、諸外国の文化・慣習などを尊重し、それぞれの国や地域に適用される関係法令を守ることの重要性を把握している。	3	
			全ての人が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。	3	
			技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。	3	
			科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。	3	
			科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通じ、技術者の使命・重要性について説明できる。	3	

評価割合

	発表	ポートフォリオ	合計
総合評価割合	30	70	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	30	70	100
分野横断的能力	0	0	0